

50周年祝い活動振り返る ボーイスカウト二本松第1団



会の活動を振り返った祝う会

二本松市のボーイスカウト福島第58団(ボーイスカウト二本松第一団)の五十周年を祝う会は三日、市内神野美智男発起人代表

があいさつし、鹿野道弘実行委員長が「ボーイスカウト活動を通じて、青少年の育成に寄与し続けたい」と訴えた。ボーイスカウト設立、発展への尽力に感謝し、佐々木道昇初代隊長、佐々木宏文委員長に紅白のネックチーフを贈呈した。新野洋市長、安斎精児ボーイスカウト県連盟理事長が祝辞を述べた。乾杯の音頭の後、出席者は会の活動を振り返った。ボーイスカウトは一

九六八(昭和四十三)年に市内の真行寺を団本部として発足し、翌一九六九年に登録を受けた。国内外の大会に参加したり、キャンプを繰り広げたりして少年の育成に努めてきた。現役団員は三十六人で、卒団生は約四百人になっている。

寺院への理解深める

ボーイスカウト 福島第3団 慈恩寺地蔵祭り



福島市のボーイスカウト福島第三団主催の地蔵祭りは二日、市内春日町の慈恩寺で開かれた。境内の地蔵を参拝する子どもたち

子どもたちに宗教的行事を身近に感じてもらおうと毎年開催している。同団に所属する小学生ら約二十人が参加した。慈恩寺の住職による説話を受け、境内の地蔵を参拝した。流しそうめんやバーベキューなども行われ、子どもたちは楽しみながら寺院への理解を深めた。